



あるところに、神さまになりたい男がいました。

毎日毎日、そう考えていたら。
男はある日神さまに出会いました。

「お前は本当に神になりたいのか？」
神さまは男に、そうたずねました。

「もちろんです。そのためにはどんなことも我慢できます」
と、男は答えました。

「なぜ、お前は神になりたいのか？」
と、また神さまはたずねました。

今度は、男は答えることができませんでした。

神さまは言いました
「では、これをごらん。」

すると突然、男の目の前に
男が以前から嫌いだった男が現れました。

そして「あ」と思う間もなく
その嫌いだった男は目の前から消えました。
もう嫌いな男はいません。

次に男の目の前に、
自分の友人が現れました。

そして「あ」と思う間もなく
その友人は目の前から消えました。
もう友人はいません。

次に男の目の前に、
自分の家族が現れました。

そして「あ」と思う間もなく
家族は目の前から消えました。
もう家族はいません。

最後に男の目の前の景色が・・・
「あ」と思う間もなく目の前から消えました。

男は、いつの間にか自分が
とても大きくなっていることに気づきました。

全てを含むほど大きく。

どこからどこまでが
自分なのかがわからないほどに・・・。

足りないものなど何もなく、満たされ
とても穏やかな気持ちです。

そして男は気づきました。
自分はもともと神だったことに・・・。

神だったことを思い出した男は、
その力で

景色をつくり
家族をつくり
友人をつくり
嫌いな男をつくりました

そして、せつかく自分が神だったと思い出した記憶を
綺麗に消しました。

記憶が消える最後の瞬間、神さまである男はこうつぶやきました。
「退屈だけは、我慢できない・・・。」

そして神さまの旅はまだまだ続くのでした。

神さまの旅

<http://p.booklog.jp/book/54602>

著者 : monika4966

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/monika4966/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/54602>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/54602>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ